

黒大豆「“独自”の栽培あれこれ」

黒大豆「丹波黒」を生み出す 伝統の技術

丹波篠山で生まれた黒大豆「丹波黒」には独特な技術が数多くあります。その一つは、前号で紹介しました高い畝うねです。一般に栽培されている普通大豆や「丹波黒」の次に多く栽培されている黒大豆「いわいくろ」などでは、畝を立てずに平らな圃場ほじょうに直接種を播き、生育途中から土寄せを行い、高さ10～20cm程度の小さな畝にします。

ところが、「丹波黒」では、最初から高さ30cm以上の畝を立て、さらに土寄せを行うので、畝の高さは40cmにもなります（高畝栽培）。また、発芽をよくするため苗は苗床なえどこでつくり、植え付けます（移植栽培）。生育が旺盛なため、畝と畝の間隔は、普通大豆の60cmに対して「丹波黒」は160cmとし、株と株の間隔も広くします（疎植栽培）。そして、7月下旬には支柱を立てて倒れないようにします（支柱立て栽培）。

これらの栽培方法は、黒大豆「丹波黒」を排水の悪い水田で安定的に生産するために、先人が長い年月をかけて培ってきた伝統の技術なのです。



長年、独自に培われてきた技術で育てられる「丹波黒」

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

日本農業遺産認定